

協働パイロット事業 (H20) 企画提案書

団体名：NPO法人：静岡県防犯アドバイザー協会

1. 事業の名称

今・求められる防犯意識・・・高めよう中学生の力で！

2. 事業方針 (市民ニーズや協働で取り組み意義を踏まえてください)

地域の中学校と協働し生徒有志による防犯サークルを立ち上げ、防犯意識の高揚を目指して活動する。
次世代を担う子どもたち一人ひとりが、生涯にわたって健康で安全な生活を築く基盤となる活動を行う。

3. 協働にあたって提案団体が果たす役割及び行政に望むこと

防犯についての知識習得。ボランティア活動の大事な点など具体的な実践方法の指導と活動のサポートを行う。

4. 成果目標 (できる限り具体的に表現してください)

現在実践されている「子どもを守る会」「防犯協会」「地区安全会議」「スクールガードリーダー」などの制度・組織による見守り活動は素晴らしい活動と評価されます。今回の事業で最も大切な点と期待されることは『子ども達一人ひとりが自分自身の防犯力をたかめ、自助の精神が涵養され自分の身は自分で守れる子ども、さらには地域に働きかけられる子ども』に成長していくことです。中学生の日々の防犯活動(啓蒙・啓発)を目的のあたりにして、近隣の保育園・幼稚園・小学校の幼児、児童、教職員、町内、自治会など関係者の皆さんへ多大な示唆を与え、地域がスクラムを組みさらなる発展とつながります。過去4年間に延べ240回程の防犯に関する啓蒙・啓発活動を行ってきました。公民館、地域集会所、幼稚園、保育園、学校での講演会、或いは児童クラブ(小1～3年生)での防犯啓蒙「紙芝居」など、これらの経験からこの事業は一過性であっては期待する成果は望めません。一定のスパンで着実な活動を実施していくことによって「規範意識」が醸成され、住み心地のいい安全・安心のまちなります。

5. 事業計画

- 地域との連携を重視した取り組み
- 社会の安全に貢献できる資質、能力の育成
- 積極的に安全な環境づくりができる人づくり

別紙 「中学校防犯サークルカリキュラム」に準ずる

- 1-1 調査・啓発をスタートする…………… 校区内の危険箇所などの探索
- 2 調査結果の公表・掲示…………… 生徒達に知らせる
- 3 学校、地域を安全・推進するための提言……………組織づくりについてなど
- 4 中学校が中心となり安全推進のコミュニティを構成する……………世代を超えたもの
- 5 活動内容から啓発イベントの発行・配布

- 2-1 保育園・幼稚園訪問……………キッズサークル
- 2 小学校・児童クラブ訪問……………ジュニアサークル

*子ども達をばたかせる
紙芝居・クイズ・寸劇・あいさつ運動・声かけ・など

6. スケジュール

- 1、 結団式
 - 2、 ワークショップ「私達に起こる犯罪」
 - 3、 ワークショップ「私達に出来る防犯活動」
 県警本部見学
 - 4、 予知防犯の勉強 I
 - 5、 予知防犯の勉強 II
 - 6、 簡単な刑法の勉強
 駿府学園見学・静岡刑務所見学
 - 7、 ワークショップ「私たちに出来る防犯活動」
 - 8、 防犯標語づくり
 - 9、 防犯ポスターづくり
 - 10、 青色回転灯装備車にて防犯パトロール実施体験
 - 11、 学区内昼間防犯パトロール実施体験
 - 12、 防犯紙芝居上演練習
 - 13、 防犯紙芝居上演練習
 - 14、 防犯紙芝居公演
 - 15、 認定、解団式
- 以上を約6ヶ月かけて進行予定です。

7. 実施体制および主要スタッフの経歴

当協会の実施体制は、「静岡県防犯まちづくりアドバイザー」18名が中心となり、毎回常時3名以上が参加し(別紙添付1)のカリキュラムを消化してゆきます。

スタッフ全員の経歴は、静岡県が、防犯に関する高度な知識や技術を持った人材を養成する為、平成17年度から3年間開校しました「しずおか防犯まちづくりカレッジ」にて、一流の教授陣のもと、犯罪予防の基礎から防犯活動の実践的な知識・技術を体系的に学び、「静岡県防犯まちづくりアドバイザー」はこのカレッジを修了し、「しずおか防犯まちづくり学士」の称号を得て、静岡県に登録されました“防犯まちづくり”を広め支える伝道師です。
スタッフ講演等の経歴は別紙添付2

8. 特にアピールしたいこと(専門性、独自性、先駆性、実績など)

―――< 中学生による防犯活動 >―――

過去、一般の成人高齢者を対象に防犯講演会を79回、6871人に行いました。皆さんその場では真剣に聞いていただきますが、実家に帰ってしまうと今までのどろりの生活で、夏などは玄関は開けっ放しで、二階の窓など網戸のまま寝たり、庭に置いてある自転車など鍵もかけずに置いてある始末です。そこでわたしくし達は次世代を担う人たちに防犯意識を持ってもらうことが重要だと感じました。一つの地域で系統性を持ち継続して活動できるのはまさに中学生である。中学生が防犯活動を行えば、常に防犯意識が働き、万引や窃盗などが抑止され、自分や友達が犯罪者にならない、また家庭においても戸締りの確認など、犯罪を防ぐことが出来ます。そして、そこで培われた道徳観、倫理観が次の世代に受け継がれ、本当の住み心地のいい安全・安心のまちになります。

協働パイロット事業 (H20) 見積書

団体名：NPO法人：静岡県防犯アドバイザー協会

企画のタイトル：安全・安心・住み心地のいい地域づくり

項 目	金 額	説 明
パトロールベスト	27,000	1800*15
ハンドメガフォン	2,800	2800*1
反射付蛍光ジャンパー	36,000	2400*15
エンブroidキヤップ	9,000	900*10
指導員帽子	4,500	900*5
腕章	6,000	120*15
のぼり旗	4,000	1000*4
ポール	2,000	500*4
強カライト	11,500	2300*5
事務用品その他	8,000	
指導員交通費(手当含)	112,500	1500*5人*15回
その他(見学等の雑費)	13,000	
小 計 A	236,300	
消費税 B=A×0.05	11,815	
合 計 A+B	248,115	

※ 参加費の徴収、物品の販売、提案団体の自己負担等、委託料以外の財源がある場合

収入見込み額	金 額	主な用途

企画提案の概要書

(様式4)

提案団体名	NPO法人：静岡県防犯アドバイザー協会
企画案のタイトル	安全・安心・住み心地のいい地域づくり
提案の要旨 (企画提案書の概要を400字以内で記入ください。)	<p>———<中学生による防犯活動>———</p> <p>過去、一般の成人高齢者を対象に防犯講演会を110回、8575人に行いました。皆さんその場では真剣に聞いていただきましたが、実家に帰ってしまった。皆さんその場では真剣に聞いていただきませんが、二階の窓など網戸のままです。そこで寝たり、庭に置いてある自転車など鍵もかかずに置いてある始末です。そこでおたたくし達は次世代を担う人たちに防犯意識を持ってもらうことが重要だと感じました。一つの地域で系統性を持ち継続して活動できるのはまさに中学生であります。わたたくし達は中学生と一緒に防犯の勉強をしながら防犯のノウハウを伝授してゆきます。そして中学生が防犯活動を行えば、校内や学区内の安全など常に防犯意識が働き、家庭においても戸締りの確認などに注意し、また生徒内での万引や窃盗などが抑止され、自分や友達が犯罪者にならないことも出来ます。そして、そこで培われた道徳観、倫理観が次の世代に受け継がれ、本当の住み心地のいい安全・安心のまちになります。</p>
金額	248,115円

《注意事項》

ホームページでの公開資料です。以下のことに注意してください。

- ・ 丸数字などの特殊記号は使わないようにしてください。
- ・ 図やイラスト、写真、動画、スライド等は掲載できません。
- ・ htmlで表現できない複雑な表現方法はご利用できません。